

take root in

~~に根付いていく、~に定着していく~

いよいよ「平成」(achieving peace)に続く「令和」(fortunate harmony)の時代が幕を明けました。新たな元号に対する盛り上がりや垣間見て、外国人は改めて日本の伝統と皇室(Imperial Household)の存在を再認識したようです。選定プロセス(name-picking process)から発表後に至るまでの、国内のさまざまなメディアの過熱ぶりに驚く外国人もいました。

また、初めて日本の古典(classical literature)から採用したことに保守色を感じる海外の報道も、少なからずありました。

The new era name will **take root in** the lives of the Japanese people.

新しい元号は日本人の生活に根付いていくでしょう。

take root in~は考え、信念、システムなどが受け入れられるときに使われます。rootは「(植物や木の)根」という意味ですから、根を下ろす感じをイメージしましょう。徐々に根付いていくニュアンスを出したければ、...will begin to take rootとすることができます。takeの代わりにbecomeも使え、...will become rooted in~となり、rootedと受動態になっている点に気をつけましょう。

Pacifism is deeply **rooted in** Japanese post-war society.

平和主義は日本の戦後の社会にしっかり根付いています。

take root in~が根付いていく動きを示すのに対し、be rooted in~は「~は根付いている」という状態を指します。これにdeeplyが加わると「深く根付いている、しっかり根付いている」という意味になります。

「平成」には平和(peace)の1文字があることに加え、明治や大正、昭和のような戦争のなかった時代でもあることから、外国人の目から見ると、国民の間に平和主義が根付いたように映るようです。

We should tackle the **root cause** of this problem.

この問題の根本的原因に取り組むべきです。

最後にビジネスでもよく使われるroot causeという熟語をみておきましょう。これは「根っこにある原因」、つまり「根本的原因、そもそもの原因」という意味です。root cause analysisといえば「根本的原因の分析」。get to the root of the problem(根本的原因を突き止める)といった言い回しもあります。

単語・熟語チェック

era name 元号

pacifism 平和主義

post-war 戦後の

tackle (手強い問題に)取り組む